

社会に息づくアーユルヴェーダにむけた日本の暮らしの中の共生の智慧： 八福神と、聖徳太子の四箇院オンライン化の試み



上馬場 和夫

Kazuo Uebaba

NPO 日本アーユルヴェーダ協会
理事長

人口減少や檀家離れなどにより仏寺の収入や存続が危ぶまれています。そこで、我々NPO日本アーユルヴェーダ協会では、令和元年から、寺子屋シャラと呼んでアーユルヴェーダの生死の智慧を、日本の伝統文化と関連が深い神社仏閣と関連させながら普及することを開始しております。

アーユルヴェーダといえば、古代インドに起源をもつため同じ古代インド起源の仏教と相性がよいと思われます。実際、スリランカのアーユルヴェーダは、ヒンドゥー教よりも仏教的なアーユルヴェーダの基盤をもっています。しかしアーユルヴェーダというと、現代インドの文化や宗教にそった生活習慣や言葉、薬草やグッツを使うことがほとんどです。たしかに、近年の日印の経済&文化交流の進展により、インドのものが日本でかなり受け入れられやすくなってきました。しかし、インドだけでなく、日本的な良さをできるだけ取り入れることで、もっと広く日本での普及を図ることができるのではないかと我々は考えています。

ただ、人類の歴史において戦争や紛争のものは、宗教戦争とも呼べるものですので、宗教性が強くなると、国内外で問題を起こす危険性があります。寺子屋シャラ活動では、そのような宗教性をなくすべく、宗教ではなく哲学（二元論：サーンキヤ哲学、不二元論：ヴェーダンタ哲学）を学ぶ企画も提案しています。また、現代西洋科学の最先端である量子物理学にも注目して、宗教を和合する活動も活発になってきました。実際ドラマ自身も、「仏教は量子物理学だ」とも述べられておられます。ただ、これらの理論的な概念は万人が理解することが困難です。もっと日本的でヒンドゥー教でも受け入れられている世界観として、アニミズム（自然崇拜）を取りこむことで、アーユルヴェーダの日本への普及が進むと考えています。実は「七福神」という日本人的な全てを受け入れる信仰の形態があることを、田中英道氏が提唱されています（田中英道：『日本の宗教 本当は何がすごいのか』育鵬社、2014）。インドのヒンドゥー教の3神と中国の3神、日本の恵比寿神の合計7神に加え、昭和に入ってクリスマスを祝う風習も日本に定着してきたことから、宗派を超えた捉え方をする日本人は、サンタクロースが幼少時期からクリスマスの幸せな体験の象徴となっています。サンタクロースは、実は北極圏のラップランドが故郷ですので、キリスト教というより、ラップランドのシャーマニズムの神様とも言われています。以上合計、8つの神様が最近の日本では、福の神になっているため、前出の田中英道氏は、「八福神」が日本の文化の背景にあると言われています（同著）。

これら八福神には、福を象徴するように、共通して「笑い」があります。また、ヒンドゥー教や神道には、自然崇拜アニミズムとシャーマニズムが根底にあります。つまり、「笑い」とシャーマニズム&アニミズムが宗教を超えたものとして、日本人には幸せの元だと認識されてきたのです。このような七福神や八福神は、多様性の和合のひな型ではないでしょうか。

良いものは全てそのまま認めるという日本的で平和的な概念を、まさに生命の科学アーユルヴェーダの日本での捉え方として、インド、中国、現代の医学体系の3つを和合したものと我々は提唱したいと考えます。

また、日本において神道、仏教、道教、儒教、さらには景教（東方キリスト教）をも受け入れて和合させた聖徳太子は、医療と福祉・教育を統合させた四箇院というホリスティックなシステムを大阪の四天王寺の傍につくりました。これは、当時世界一の文明国であった隋の天台仏教を取り入れたものでしたが、聖徳太子没後100年くらいに、一時衰退した後、疫病の蔓延に対処すべく奈良の大仏を建立した聖武天皇のお妃、光明皇后が一時的にリバイバルしました。しかし、その後、国分寺という形になって、ホリスティックな施薬院や療病院はなくなりました。

NPO日本アーユルヴェーダ協会では、ホリスティックな四箇院を現代にリバイバルさせて、医療と宗教、福祉、教育の和合したシステムの中で、二元論、不二元論、アニミズムなどを3即一として学びながら、八福神を大切にす平和的な和合の思想の元、幸福を生きる生死の智慧であるアーユルヴェーダを、日本アーユルヴェーダ学会やALA協会その他の組織と和合しながら普及させることを目指しています。

略歴

1978年広島大学医学部卒業。卒業時から東西医学融合をライフワークと決め、虎の門病院内科、北里研究所臨床薬理研究所 研究室長六本木クリニック院長などを歴任。1994年 シドニー・セントヴィンセント病院SVH肺臓移植センターにて脈診を臨床生理学的に研究。1999年、富山県国際伝統医学センターにて、インド、イスラム諸国、中国、ペルーなどの各国の伝統医学を調査。2008年、富山大学和漢医薬学総合研究所未病研究部門客員教授。2011年から帝京平成大学ヒューマンケア学部教授。元日本統合医療学会指導医。NPO 法人日本アーユルヴェーダ協会理事長。一般社団法人日本アーユルヴェーダ学会理事。ハリウッド大学院大学特任教授。東西医学の融合をすることで、「幸福を生きる生死の智慧であるアーユルヴェーダ」を普及させる活動を行っている。著作：「新版インドの生命科学アーユルヴェーダ、農文協、2018」「アーユルヴェーダとヨーガ改訂第三版、金芳堂、2017」など。

所属団体等

日本東洋医学会
日本山岳修験学会
日本東方医学会
NPO 日本アーユルヴェーダ協会
日本アーユルヴェーダ学会
一般社団法人日本アグスティアライフサイエンス協会
日本抗加齢学会

資格・肩書等

ハリウッド大学院大学特任教授